

令和2年3月16日

報道機関 各位

東北大学大学院経済学研究科 高齢経済社会研究センター

## 被災地住民の健康状態は悪化し続けている -心のケアの必要性に注目-

### 【発表のポイント】

- ・東北大学高齢経済社会研究センターは、令和2年2月に東日本大震災以降の被災地住民の生活環境と復興状況を踏まえて、地域住民の健康状態に影響を及ぼす要因について、学術的調査を行いました。
- ・調査結果によれば、6年の間に身体と心の面から被災地住民の健康状態が悪化していたことが確認できました。
- ・そのうち、特にメンタルヘルスの悪化が目立ちました。

### 【概要】

東日本大震災後9年経過を機に東北大学大学院経済学研究科高齢経済社会研究センターは、2014年に実施したオリジナル調査(全国47都道府県在住の3,119人(オンラインモニタ)を男女均等で抽出)の対象者を追跡し、この6年間における被災地住民の健康状態の変化等を把握しました。その結果、被災地住民の健康状態は悪化し続けており、特にメンタルヘルス面において明確な変化が確認できました。

#### 1. 6年の間に身体と心の面から被災地住民の健康状態が悪化していた

初めに東日本震災後9年後の被災地住民の健康状態を尋ねたところ、身体面については2014年の調査結果(に比べ、2020年の調査における「良い・良かった」と回答した割合が低くなる一方、「悪い・悪かった」とする人の割合が高くなっていました。また、心の面の健康状態については、「良い・良かった」と答えている人の割合が2014年の10.7%から2020年の7.3%までに減少しましたが、「悪い・悪かった」としている人の割合はほぼ変わっていませんでした。総合的に見ると、同じ人を追跡した結果、6年の間に平均的には被災地住民の健康状態が悪化していたことが分かりました。

## 2. メンタルヘルスの悪化が特に著しかった

次に K6<sup>\*</sup>を用いて、被災地住民のメンタルヘルスの状況を確認したところ、K6 の 6 つの構成項目の中で、2014 年においてはいずれかの症状があると回答する人の割合は 10.0%以下で、「そろそろ、落ち着かなく感じる」の割合はわずか 1.8%にすぎませんでした。これに対して、2020 年の当該結果は、平均的にみると、2 割前後の回答者が何らかのメンタルヘルス不全の症状があり、ストレスを感じている人の割合は大きく増えることが分かりました。

※：K6 は米国の Kessler らによって開発され、一般住民を対象とした調査で心理的ストレスを含む何らかの精神的な問題の程度を表す指標です。

## 3. 心のケアに関する取り組みが強化されるべき

以上の結果を踏まえて、東日本大震災が 9 年経過したにもかかわらず、依然として被災地住民の健康状態、特にメンタルヘルスに大きな影響が残っています。したがって、今後長期にわたり、心の健康の維持・回復に関連する取り組みが引き続き強化されるべきです。

本稿のもとになった研究に対して、東北大学未来型医療創造卓越大学院プログラムの支援によって行われました。

付表 1 身体と心の面で健康状態の比較結果

1. 現在の身体 の健康状態	被災 地 3 県	1. 良い・ 良かった	2. まあ良い・ 良かった	1+2	3. 普 通	4. 少し悪い・ 悪くなった	5. 悪い・ 悪かった	4+5
2014 年	850	109	152	261	449	112	28	140
	100.0	12.8	17.9	30.7	52.8	13.2	3.3	16.5
2020 年	813	56	105	161	491	125	36	161
	100.0	6.9	12.9	19.8 ↓	60.4	15.4	4.4	19.8 ↑
2. 現在の心 の健康状態	被災 地 3 県	1. 良い・ 良かった	2. まあ良い・ 良かった	1+2	3. 普 通	4. 少し悪い・ 悪くなった	5. 悪い・ 悪かった	4+5
2014 年	850	91	142	233	449	136	32	168
	100.0	10.7	16.7	27.4	52.8	16.0	3.8	19.8
2020 年	813	59	114	173	497	111	32	143
	100.0	7.3	14.0	21.3 ↓	61.1	13.7	3.9	17.6

注：1. 「東日本大震災 9 年後の地域住民の健康状態に関するアンケート」調査の個票データにより、筆者作成。2. 被災地 3 県の回答者のみを利用しました（上段：回答数、下段：割合）

付表2 メンタルヘルス指標(K6)における比較結果

K6	1. 神経が過敏である	2. 絶望感を感じる	3. そわそわ、落ち着かなく感じる	4. 気分が沈み込んで、何が起きている気晴れないように感じる	5. 何をするのも骨折りだと感じる	6. 自分は価値のない人間だと感じる	7. この中に当てはまるものはない
2014年	66	25	15	73	29	38	604
	7.8	2.9	1.8	8.6	3.4	4.5	71.1
2020年	237	137	132	204	205	169	419
	29.2	16.9	16.2	25.1	25.2	20.8	51.5

注：1. 「東日本大震災9年後の地域住民の健康状態に関するアンケート」調査の個票データにより、筆者作成。2. 被災地3県の回答者のみを利用しました（上段：回答数、下段：割合（被災地3県における回答者数のうち当該選択肢を選んだ人の割合））

※調査の基本集計結果は陳・吉田（2020）をご参照ください。

陳鳳明，吉田浩（2020）「東日本大震災9年後の地域住民の健康状態に関するアンケート調査（基本集計結果）」，TERG Discussion Papers, No. 417.

<http://www.econ.tohoku.ac.jp/econ/dp/terg/terg417.pdf>

**【問い合わせ先】**

東北大学大学院経済学研究科

高齢経済社会研究センター

担当 吉田浩 陳鳳明

電話 022-795-6292 022-795-4789

E-mail [hyoshida.econ@tohoku.ac.jp](mailto:hyoshida.econ@tohoku.ac.jp)